【旭川市】

避難確保計画

　　　　　土砂災害警戒区域内にある要配慮者利用施設用

「旭川法人　旭川グループホーム（施設名）」　土砂災害に関する避難確保計画

１　計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第８条の２に基づくものであり、「旭川法人　旭川グループホーム（施設名）」の近隣で土砂災害の発生又は発生のおそれがある場合に対応すべき必要な事項を定め、土砂災害から円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

２　計画の適用範囲

この計画は、「旭川法人　旭川グループホーム（施設名）」に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

３　防災体制

⑴　各班の任務と組織

○各班の任務

指　揮　班：施設管理者を支援し、各班へ必要な事項を指示する。

情報収集班：テレビ、ラジオ、インターネットなどを活用した積極的な情報収集、がけ崩れ等の前兆現象の把握や被害情報などを収集し、指揮班、避難誘導班に必要事項を報告・伝達する。

避難誘導班：【警戒レベル３】高齢者等避難の情報が発令された場合、がけ崩れ等の前兆現象などを発見した場合に、利用者等を安全な場所へ避難誘導する。

○組織図

　 ＜昼間＞

施設統括　施設管理者：施設長　旭　一郎

班長：事務長　旭　二郎

班員：主任　旭　三郎　ほか２名

情報収集班

班長：主査　旭　四郎

指揮班

避難誘導班

班員：主任　旭　五郎　ほか２名

班長：看護師　旭　六郎

班員：介護職員　旭　七郎　ほか２名

＜夜間＞

施設統括　施設管理者：施設長　旭　一郎

班長：当直責任者　旭　二郎

班員：当直副責任者　旭　三郎　ほか１名

情報収集班

班長：１階介護職員　旭　四郎

指揮班

避難誘導班

班員：１階介護職員　旭　五郎　ほか１名

班長：当直看護師　旭　六郎

班員：１階介護職員　旭　七郎　ほか１名

○参集基準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 判断基準 | 主な業務内容 | 対応要員 |
| 参集準備 | ▪ 台風接近が予想される場合▪ 大雨が予想される場合 | ▪ 気象情報等の情報収集  | 施設職員全員 |
| 応援当番職員参集  | ▪ 大雨警報が発表された場合  | ▪ 気象情報等の情報収集▪ 避難準備 | 防災当番施設職員 |
| 全職員参集 | ▪ 土砂災害警戒情報が発表された場合 ▪ 【警戒レベル３】高齢者等避難等が発令された場合 | ▪ 気象情報等の情報収集▪ 関係行政機関等への連絡・通報▪ 避難誘導 | 施設職員全員 |

⑵　事前の対策

台風の接近などあらかじめ土砂災害の危険性が高まることが予想される場合は、夜間当直施設職員の増員やデイサービスの中止などを検討するとともに、各施設職員の役割分担を再確認する。

⑶　情報収集及び伝達

情報収集班は、気象情報、避難指示等の情報について、次表に示す方法により、情報を収集し、指揮班、避難誘導班及び施設利用者等へ必要事項を報告・連絡する。また、がけ崩れ等の前兆現象や被災時の被害状況などの情報を入手した場合は速やかに市役所・消防署等へ通報する。

○主な情報及び収集方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 収集する情報 | 収集方法 | 施設職員共有方法 |
| 気象情報 | テレビ、ラジオ、インターネット（情報提供機関のウェブサイト）等 | メール等 |
| 土砂災害警戒情報 | テレビ、ラジオ、インターネット（情報提供機関のウェブサイト）等 | メール等 |
| 【警戒レベル３】高齢者等避難【警戒レベル４】避難指示【警戒レベル５】緊急安全確保 | インターネット（市役所のウェブサイト）、緊急速報メール等 | メール等 |

○情報伝達の内容・連絡先等

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 報告対象情報 | 担当者 | 報告先 | 連絡先等 |
| 前兆現象 | 情報収集班 | 旭川市防災安全部防災課 | 0166-33-9969 |
| 旭川市消防本部指令課 | 0166-33-9961 |
| 被害情報 | 情報収集班 | 旭川市防災安全部防災課 | 0166-33-9969 |
| 旭川市消防本部指令課 | 0166-33-9961 |
| 避難準備・開始等について | 避難誘導班 | 利用者　　　　　　　　 | 館内放送、口答 |
| 旭川市○○部○○課 | 0166-○○-○○○○ |

４　避難誘導

⑴　避難誘導等

開所した避難所等へ避難誘導する。

ただし、避難所等まで立ち退き避難が困難な場合は、近隣の待避場所「旭公園」に待避する。

立ち退き避難が危険な場合は、施設の談話室へ避難誘導する。

⑵　避難準備

○市役所等からの情報に基づく判断

次の気象情報の発表や避難指示等の発令があった場合に避難等を開始する。

・避難開始基準：【警戒レベル３】高齢者等避難の発令

○自主避難の判断

次に示すような土砂災害の前兆現象を確認した際は、市役所等の情報を待つことなく避難を開始する。前兆現象については、安全確保のため施設内から確認できる範囲で把握し、市に報告する。

＜土砂災害の前兆現象＞

・がけの表面に水が流れ出す。

・がけから水が噴き出す。

・小石がパラパラと落ちる。

　　　 ・がけからの水がにごり出す。

　 　　・がけの樹木が傾く。

　 　　・樹木の根の切れる音がする。

　 　　・樹木の倒れる音がする。

　 　　・がけに割れ目が見える。

　　 　・斜面がふくらみだす。

　　 　・地鳴りがする。

⑶　避難方法

○避難所等への避難の場合

・避難所等への移動は、車によるものとする。

車による移動：車両３台（利用者８名、施設職員３名）

・施設から避難完了確認のため、未避難者の有無を確認する。

○施設内避難の場合

・施設の談話室への避難は、徒歩、車いすによるものとし、エレベータの使用は車いす利用者を優先する。

・施設内の各部屋より避難完了確認のため、未避難者の有無を確認する。

⑷　避難経路

○避難所等への避難の場合

・避難所等への移動は、旭川通線経由とする。

（経路図は、別図のとおり）

○施設内避難の場合

・施設館内の避難経路は施設内のエレベータ及び中央階段とする。

・停電時にはエレベータが停止することに留意する。

（経路図は、別図のとおり）

⑸　施設周辺や避難経路の点検

○施設周辺の点検

・避難所「○○小学校」に移動する際、施設敷地内の樹木や支障物がないか点検を実施し、支障となる樹木は適宜剪定を実施する。

・施設内の移動時に支障となる物がないかを確認し、支障物は速やかに移動する。

○避難経路の点検

・避難所「○○小学校」までの避難経路を確認するとともに、大雨時に冠水して移動が困難になる箇所等をあらかじめ把握し、施設職員に情報を共有する。

⑹　避難の実施

・避難の実施にあたっては、避難開始を管内放送等で「これより（○○小学校）に（車３台）で避難を開始します。」と施設職員、利用者等に周知する。

５　避難の確保を図るための施設の整備

⑴　停電したときのため、自家発電装置（発電機）を導入し、発電機に必要な燃料を備蓄し、維持管理に努める。

⑵　情報収集及び伝達、避難誘導の際に使用する施設及び資機材として、次に示すものを備蓄し、維持管理に努める。

○避難確保資機材等一覧

|  |  |
| --- | --- |
| 活動の区分 | 使用する設備又は資器材 |
| 情報収集・伝達 | ラジオ、タブレット、携帯電話、懐中電灯等 |
| 避難誘導 | 名簿（施設職員、利用者等）、案内旗、タブレット、携帯電話、懐中電灯、携帯用拡声器、ライフジャケット、蛍光塗料等 |

６　防災教育及び訓練の実施

⑴　防災教育

施設管理者は、土砂災害の危険性や前兆現象等、警戒避難体制に関する事項について、施設職員に対して研修を行い、情報伝達や自主避難の重要性を理解するよう努める。研修は、訓練と合わせて実施を計画することを基本とする。

主な内容は以下のとおり

・土砂災害の前兆現象について

　　　・情報収集及び伝達体制

　　　・避難判断・誘導

　　　・本避難確保計画の周知

⑵　訓練

避難訓練は研修と一連で実施することを基本とする。また、全職員を対象に、机上訓練を含め土砂災害に対する避難確保計画の内容を把握するため行う。

・訓練内容

　　　・情報収集及び伝達

　　　・避難判断

　　　・避難訓練（要介護度に応じた避難手法、避難方法など）

⑶　訓練の実施時期

訓練は出水期前に行うとともに、下記も含め年間概ね２回行う。

　　　・新規採用職員の研修及び訓練を実施する。新規採用者の訓練は全職員を対象とした訓練と同時に実施することを基本とし、年度途中で新規採用者がある場合は、別途研修を計画し、机上訓練等を実施する。

　　　・全職員を対象とした情報収集・伝達及び避難誘導訓練を出水期前（６月まで）に実施する。